

対策内容

- ・当該交差点は、事故危険箇所としての整備区間に指定されており、死傷事故率が595.6件/億台キロ、死傷事故件数が60件/4年（ともにH23～26年事故）であり、交通事故が多発。そのうち、右折車と自転車が交錯する事故が14件/4年発生。
- ・右折車と左折車の交錯を防止するため、国道1号左折導流帯において、左折車両が大まわりしない様、車線分離標を設置（工事期間：H28.2.1～3.25）。

【位置図】



対策前

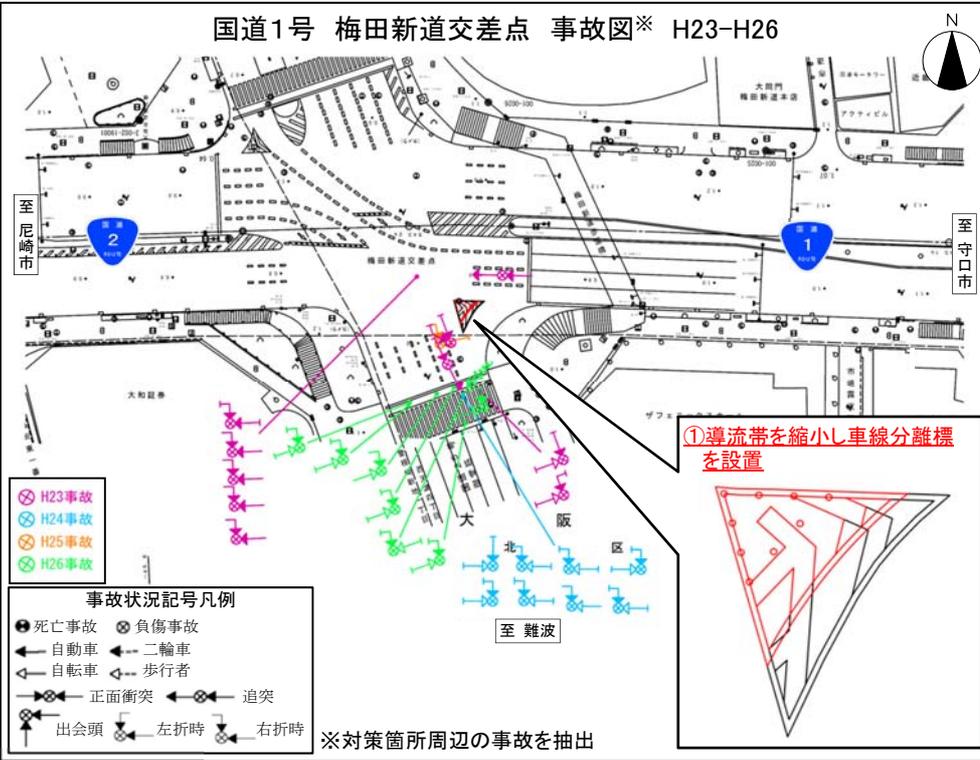


対策後



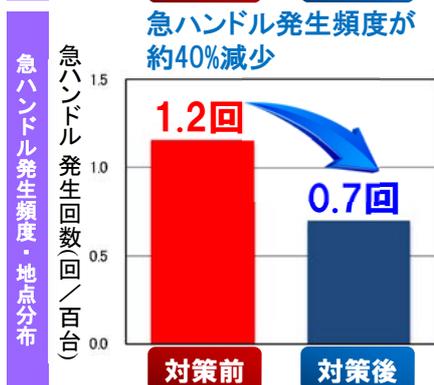
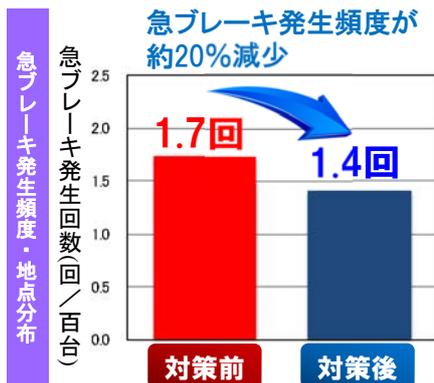
導流帯を縮小し
車線分離標を設置

国道1号 梅田新道交差点 事故図※ H23-H26



整備効果

【効果1】左折車との交錯の懸念がなくなり、右折車両の急ブレーキ・急ハンドルが減少！



※使用データ：ETC2.0プローブデータ（対策前 H27.11-H28.1、対策後 H28.4-6）
国道2号東行き右折車を抽出



おおさか

大阪府 大阪市北区 梅田新道交差点

うめだ しんみち

整備効果

【効果2】車線分離標の設置により、右左折車の走行位置が区分され、交錯発生無し！

右左折車(左折260台/3h、右折720台/3h)の南側流出部における交錯発生無し



ビデオ調査確認した図角

※使用データ：大阪国道実施ビデオ調査
(H29.1.24 15:00~18:00(3時間))